吉野町地域エネルギービジョン
策定調査報告書

（ 概要版 ）

まちの「暮らし」「環境」「産業」の元気に向けて
身近な取り組みから始める　吉野新エネルギービジョン

地域住民と行政の「協働」を通じて、

吉野町にふさわしい新エネルギー導入に向けた

取り組みを始めましょう

平 成 21 年 2 月

奈 良 県　吉 野 町

吉野町地域エネルギービジョンについて

古より豊かな自然の恩恵を受けてきた吉野町にとって、豊かな自然を守り、良好な形で未来へと引き継いでいくことは、現在に生きる我々の大きな使命です。

しかし、近年では地球温暖化やエネルギー資源の枯渇などが地球規模で問題となっており、環境負荷の少ない新エネルギー導入への取り組みが求められています。

そこで本町では、地域の暮らし、環境、産業を元気にしていくような、新エネルギーの取り組みを進めていくために、地域の特性を生かした新エネルギーの普及・導入に関する基本方針を定めた「吉野町地域エネルギービジョン」を策定しました。

今後は、本ビジョンをもとに、現在のエネルギー情勢や地域の新エネルギーについての理解を深めていただきながら、関係機関とも連携を図りつつ、町民や事業者のみなさまとの協働を通じて、新エネルギーの普及や導入に向けた取り組みを推進していきます。

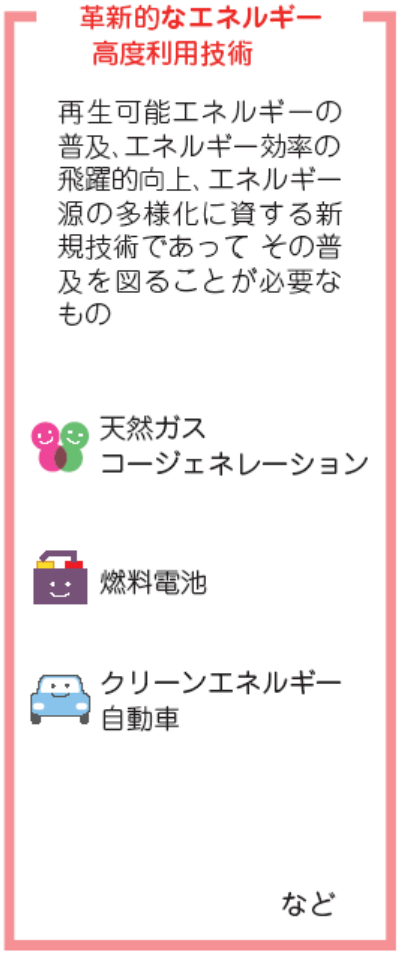
◆ 新エネルギーとは

- 太陽や風、木材などを利用する、環境にやさしいエネルギーです
- 石油などの消費を減らして、温暖化防止に役立てることができます
- 身近なエネルギーとして、地域で様々に利用することが考えられます

■　対象とする新エネルギーなど（種類の紹介）

（資料：新エネルギーガイドブック 2008　より抜粋）

＋



新エネルギー導入の必要性

◆ 地球温暖化の現状

私たちの便利で快適な現在の暮らしは、あらゆる面で、石油などの化石燃料を大量に使用することで成り立っています。しかし、化石燃料を燃やし続けてきたため、大量に発生した二酸化炭素(CO2)の影響で、熱が地球から逃げにくくなってきています。

そのために、地球の温度が上がり続けて、今後、「取り返しのつかない影響」を引き起こすのではないかと、世界中で問題になっています。

◆ 脆弱なエネルギーの供給構造

現在、私たちが使っているエネルギーのほとんどは、石油や石炭などの化石燃料から生み出されています。また、日本では、化石燃料のほとんどを、海外からの輸入に依存しています。

そのため、原油価格の高騰や、それほど遠くない将来に化石燃料が枯渇することなど、私たちの暮らしを支えるエネルギーの供給は、とても脆弱な状況です。

従って、石油等への依存、海外からのエネルギー供給の依存を低減させるために、化石燃料に変わるエネルギー源の開発・活用が求められています。

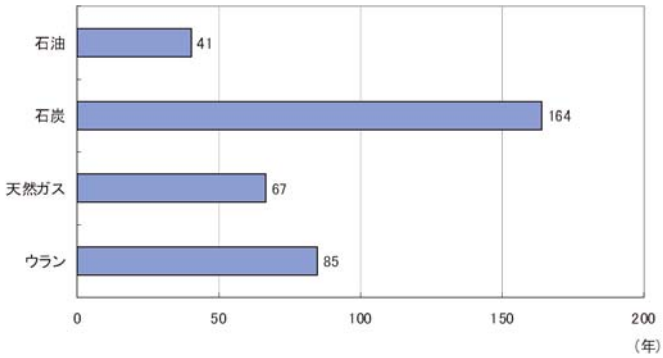


図　化石燃料の可採年数　（出典：総合エネルギー統計、ＢＰ統計）

◆ 吉野町の考え

太陽や風、木材など、使っても無くなることがなく、またはカーボンニュートラル※で、地球や身の回りの環境を損なわないで、私たちの便利な暮らしを支えてくれる「新エネルギー」が、これから重要なエネルギー源になると考えられて、世界中で導入に向けた取り組みが進められています。

吉野町としても、

①化石燃料を使い過ぎない「環境にやさしいくらし」に変えていくと同時に、
　人と自然が豊かに調和し、二酸化炭素を出さない「新エネルギーの導入」を目指す

②木材利用として間伐材等を地場産業に活用するなど、
　バイオマスの活用を通じて吉野町を活性化するために「新エネルギー活用」を目指す

ための取り組みを進めていくことを目的として、吉野町地域エネルギービジョンを策定します。

※ カーボンニュートラルとは
　化石燃料の代わりにバイオマスエネルギーを利用するなど、ライフサイクルの中で、二酸化炭素の排出と吸収がプラスマイナスゼロとなることをいいます。
　例えば、植物の成長過程での二酸化炭素の吸収量と、植物の焼却による二酸化炭素の排出量は相殺されることから、木材などのバイオマスを燃やしても、全体としては、大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えないことは、カーボンニュートラルであると考えられます。

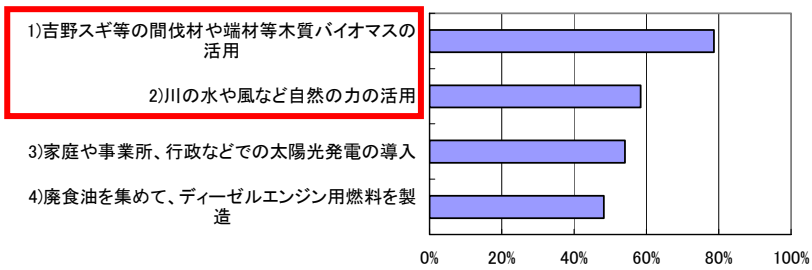
アンケート調査の結果と分析（概要）

平成 20 年 11 月に新エネルギーに関するアンケートを実施しました。その結果の概要をお知らせします。調査対象者別のアンケート回収率（回収数/配布数）は次のとおりです。

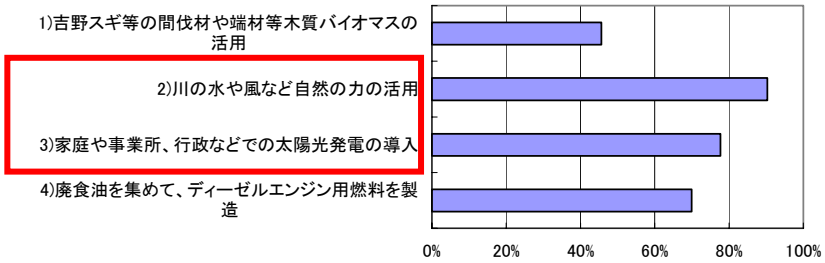
地域住民 44.0%（440/1,000 件）、事業所 33.5%（67/200 件）、小学生 97.2%（103/106 件）、中学生 71.4%（147/206 件）、高校生 75.1%（169/225 件）

◆ 吉野町として力を入れていくと良い新エネルギー

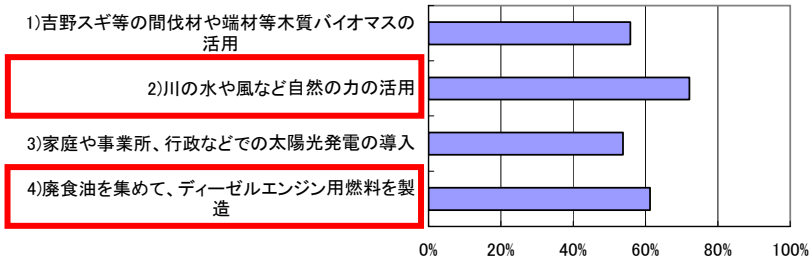
問　吉野町として力を入れていくと良い新エネルギー　（地域住民）



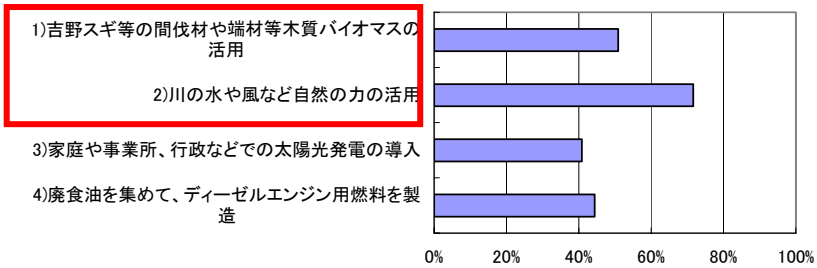
問　吉野町として力を入れていくと良い新エネルギー　（小学生）



問　吉野町として力を入れていくと良い新エネルギー　（中学生）



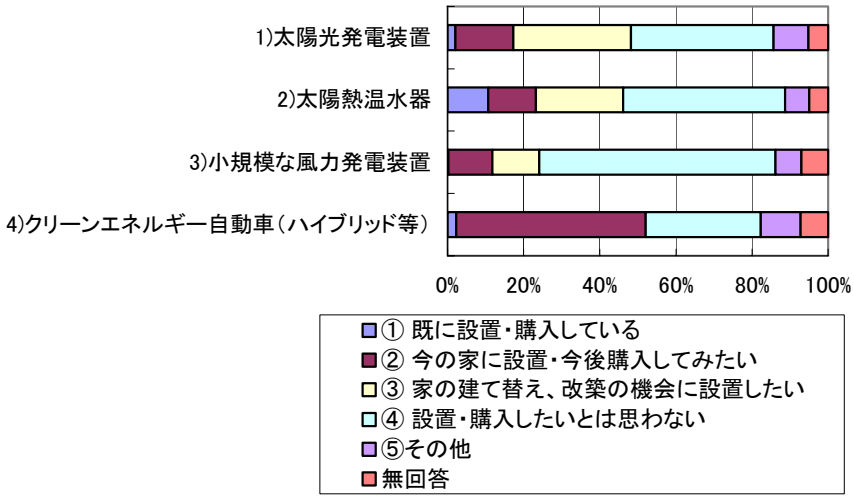
問　吉野町として力を入れていくと良い新エネルギー　（高校生）



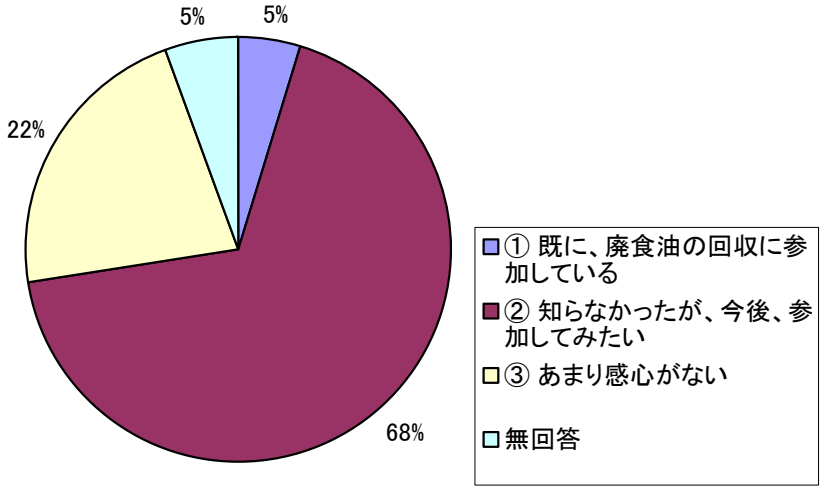
【吉野町として、力を入れて取り組むと良いと感じられている新エネルギー】

・ 各アンケートの上位 2 項目を見ると、木質バイオマス（地域住民、高校生）、風力・水力発電（小・中学生、高校生）、廃食油回収とＢＤＦ精製（中学生）、太陽光・熱利用（小学生）に対して、高い関心がみられました。

問　新エネルギー施設の導入（地域住民）



問 町内での廃食油の回収について、お聞きします



【新エネルギー施設の導入実態・意向】

・　既に導入しているという回答と、今後導入したいという意向の回答の合計値をみると、ハイブリッド自動車、太陽光発電、太陽熱温水器、小風力発電の順で多くなっており、普及が進んでいる施設ほど、導入意向が高くなっています。

【廃食油の回収について】

・　廃食油の回収に対して、既に参加している・今後、協力したいとの回答を合わせると、7 割以上の回答が得られ、町民の理解と協力が期待できる内容であると思われます。

新エネルギー導入の考え方

吉野町で新エネルギーを促進していくためには、行政が主導して、大規模な新エネルギー機器を導入していくことよりも、地域住民、事業者、自治会や住民組織、林業関係者等が、それぞれの役割を分担して、協働していく方向がふさわしいと思われます。

そこで吉野町において、新エネルギー導入を進めていく上での方針となる「基本的な考え方」を、次のように定めます。

【　基本的な考え方　】

まちの「暮らし」「環境」「産業」の元気に向けて
身近な取り組みから始める　吉野新エネルギービジョン

地域住民と行政の「協働※」を通じて、
吉野町にふさわしい新エネルギー導入に向けた
取り組みを始めましょう

※地域住民や事業者等からの前向きなアイディア・取り組みを、行政が支援しながら、ともに知恵を出し合い、汗をかきながら、活動を進めていくことを意味して、「協働」と表現しています。

基本的な考え方に基づき、具体的に検討を行っていく 3 つのテーマについて、次のように抽出して定めます。

テーマ１：暮らし（短期）

廃食油の回収からはじめて、夢と広がりのある活動として育てましょう

・既に町内で取り組みに着手している廃食油の回収から、取り組みを始めていきます。
・多くの地域住民や事業者の参加を促していく仕組みを、考えていきます。

テーマ２：環　境（中期）

地球温暖化防止につながる太陽光発電と太陽熱利用、クリーンエネルギー自動車を広めていきましょう

・アンケートで比較的高い導入意向の確認された、太陽光発電、太陽熱利用に加えて、クリーンエネルギー自動車を広めていきます。
・行政の取り組みや啓発広報を通じて、地域住民や事業者の取り組みを促していきます。

テーマ３：産　業（長期）

吉野にふさわしい木質バイオマスや清流の水などの活用に向けて、支援の仕組みを築きましょう

・吉野町を代表するエネルギー源である木質バイオマス、地域性が表されている清流の活用について、継続的に具体化に向けた検討を進めていきます。

新エネルギー導入重点プロジェクト

基本的な考え方および 3 つのテーマの具体化に向けた「新エネルギー導入重点プロジェクト」を、次のように定めます。

（短期）よしの暮らしプロジェクト

「くらしの中からつくるエネルギー」を育んでいきましょう

・アンケートで協力意向が高く、既に活動着手の実績がある廃食油の回収から、自治会等の地域単位など、吉野町内での活動を支援していきます。
・まずは廃食油の回収から着手して、耕作放棄地での菜の花栽培、搾油までを含めた「菜の花プロジェクト」も視野に入れて、町全体の取り組みとして育つよう、町民・行政・各種団体の協働を通じて、活動を支援していきます。

（中期）よしの環境プロジェクト

「太陽光発電・太陽熱利用」と「クリーンエネルギー自動車」を広めていきましょう

・技術的に確立している太陽光発電・太陽熱温水器を中心として、新エネルギーの普及に努めていきます。
・行政が率先して教育施設等の公共施設の整備・改修にあわせて、太陽光発電等の導入と、環境学習等への活用手法を検討していきます。
・公用車の入れ替えに伴って、クリーンエネルギー自動車の導入を検討していきます。
・将来計画として、地域住民や観光客に広く PR できる場所を選定して、効果的に太陽光発電等の導入を検討していきます。
・家庭等で太陽光発電を導入する場合の助成制度など、国や県等と連携して、積極的に情報提供や普及啓発を図っていきます。

（長期）よしの産業プロジェクト

「木質バイオマス」や「清流の水」などの活用をまちぐるみで支援して、実現を目指しましょう

・木材関連産業で培われてきた、極力、無駄を出さない木材のリサイクル・システム、今日でも地域に残る薪利用など、地域の特性を十分に尊重しながら、地に足の着いた吉野町にふさわしい木質バイオマスや渓流の小水力等を有効に活用する手法を、継続して検討していきます。
・今回の調査で把握された樹皮（製材工程）、木屑毛（製箸工程）の燃焼利用等を足がかりに、温風や温水を活用した地域性を活かした収益性の高い新事業への展開、足湯のような観光への波及効果、環境学習での活用、小水力発電の検討、町内の事業所への情報提供とコーディネートなど、地域のニーズを支援する体制を築きます。
・ソフト面からの着実な取り組みを重ねることで、無理の生じないよう、森林に放置されている間伐材を有効活用できる仕組みや小水力発電の具体化など、需要と供給のマッチングを重視して、町ホームページ等も活用しながら具体化を目指します。

支援・協力体制

吉野町で新エネルギーを促進していくためには、行政が主導して、大規模な新エネルギー機器を導入していくことよりも、地域住民、事業者、自治会や住民組織、林業関係者等が、それぞれの役割を分担して、協働していく方向がふさわしいと思われます。

そこで、地域住民や事業者の取り組みを通じた「自助」、自治会や住民組織、産業関連組織等のつながりを活かした「共助」、行政が責任を持って取り組む「公助」を通じて、新エネルギー導入を推進していく体制づくりを進めていきます。

特に、吉野町において大きなテーマとなっている森林に放置されている間伐材の搬出・利用等、現時点では解決策が確定していない分野について、社会情勢の変化（木材輸入状況と木材価格の変化、CO2 排出権の国内認証制度：高知県での着手事例等）、新エネルギーに関する技術革新（木質バイオマスのエタノール化技術の普及）、近隣市町村や県との連携等を視野に、継続して取り組みを模索していく中で、吉野町にふさわしい手法を見いだしていきます。

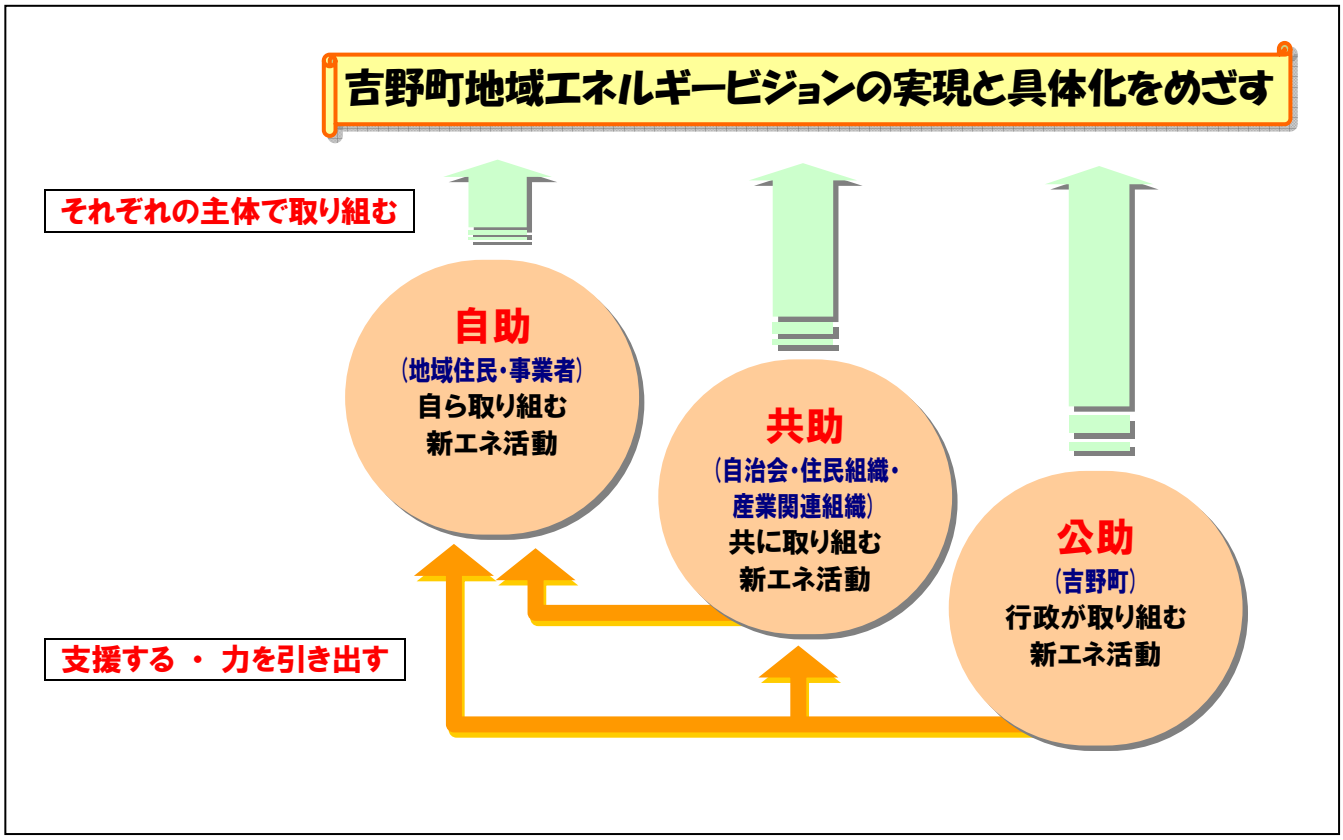


図　支援・協力体制図

連絡先・問合せ先

発行・編集　吉野町企画政策課
〒639-3192
奈良県吉野郡吉野町大字上市 80-1
TEL（0746）32－3081（代表）
FAX（0746）32－8855
HP ｱﾄﾞﾚｽ http://www.town.yoshino.nara.jp/

発行年月　平成 21 年 2 月